

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：きらぼし保育園	種別：地域型保育事業(小規模保育A型)
代表者氏名：佐枝 佳美	定員(利用人数)： 12名
所在地：〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央3-25-8 コープアゼリア鶴見2階	
TEL：045-503-3759	ホームページ： <a href="https://www.rinkai-kiraboshi.com/">https://www.rinkai-kiraboshi.com/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2019年4月1日	
経営法人・設置主体(法人名等)：株式会社レガーロ	
職員数	常勤職員： 4名 非常勤職員 6名
専門職員	保育士 6名
	調理員 2名
施設・設備の概要	保育室3
	調理室、沐浴室、トイレ、事務室 更衣室、休憩室

③理念・基本方針

<保育理念>

1. 豊かな愛情を注げる保育士のいる保育園を目指します。
2. ふれあいを大切に子どもの気持ち、保護者の考えを尊重し、家庭以外での安心できる居場所を提供します。
3. どんなに設備がよく、ものが豊富にあっても、そこに保育士の真心が入らなければ何もうまれません。

働く保育士の幸せが笑顔と愛情を生み出します。保育士、園児、地域の幸せはすべてつながっていると考え、包括的な信念のもと運営いたします。

<保育方針>

1. 豊かな愛情のもとひとに対する信頼、思いやりの心を育てます。
2. 本来持つ子どもの自ら伸びていく力を育てます。
3. 身近な環境の中で興味や好奇心を育てます。
4. 意思の芽生えの中での自発的な行いを支え導きます。
5. 健全安全な保育の中で生きる力を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

〇子どもをおばあちゃんの家に残けるといって安全で安心な保育園として、保護者が安心して働けることを目指している。少人数であるため、保育士の目が行き届き、保育士は愛情を持って、にこにこ子どもたちに接している。保育士の応答的保育が子どもたちの表情を穏やかにしている。食育に力を入れる他、園長が英語教師である強みを活かし、歌による英語教育を行っている。子どもたちは0歳児から英語に親しんでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年11月1日（契約日）～ 2024年2月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

<p>◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等</p> <p>○きらぼし保育園は、定員12名の小規模の保育所で、0～2歳の乳児を対象に、少人数の強みを活かし、きめ細やかな保育を提供している。園舎がビルの2階にあるため、天気の良い日は毎日近隣の公園に散歩に行き、子どもたちは身体を使った遊びを楽しんでいる。近隣には公園が多くあり、子どもたちは自然に親しんでいる。</p> <p>○家庭的で温かい、安心できる環境を作るよう努めている。ビルの2階という限られた環境ではあるが、室内には季節の装飾や手作りの物入れなど、子どもたちが喜び明るい環境を整えている。保育士は、威圧的な言葉は絶対に使わず、子どもが「いや！」と言ったときは、必ず受け入れるようにしている。「だめ」「早くしなさい」などの言葉は使っていない。</p> <p>○言葉で意思を伝えることが難しい年齢のため、子どもの表情を確認し、思いを汲み取って、子どもの気持ちを代弁するようにしている。一人ひとりの発達の状況は異なり、子どもの特性を理解して寄り添っている。子どもの指差し行動には、指差しした方に何があって、何が言いたかったのかを理解して、言葉での会話のきっかけを作ったりしている。</p> <p>○子どもたちが自分で取り組もうとする気持ちを受け止めて見守り、必要に応じて援助している。0歳児は手で食べたり、スプーンを持つことを覚えること、1歳児はスプーンを握って食べ物をすくうこと、2歳児はスプーンを正しく持ってマナーを覚えることなど、発達段階に応じた指導計画を立て、生活習慣を身に付けるようにしている。</p> <p>○0歳児の保育は、安心や安全に配慮し、喃語のある子どもにはしっかりと応答しながら、職員は抱っこやおんぶをしてスキンシップを大切にしている。床にマットを敷いて、這い這いができるようにし、動きがあった時には保育士が必ず傍に付くようにしている。</p> <p>○1、2歳児は、まだ甘えたい気持ちも強く、保育士とのスキンシップを楽しんだりしている。保育士はしっかり子どもの気持ちを受け止めている。身の回りの物や人に関心を持つ時期でもあり、言葉がうまく話せないためトラブルが起こることもある。保育士が相手の気持ちを伝えたり、本人の気持ちを代弁したりしながら、言葉での伝え方を促したりしている。</p> <p>○子どもたちが楽しく食事を摂ることができるよう、無理なく少しずつ食材を増やすようにしている。子どもたちは、キュウリや玉ねぎ、ジャガイモ、パプリカなどを触る体験をしている。土の付いた野菜と洗った後の野菜を比べてみたり、調理された野菜と比べてみたりして、食材への興味を持つ取り組みを行っている。ハロウィンにはカボチャ型のケーキを、クリスマスにはマッシュポテトの雪だるまを提供して、子どもたちは大喜びで食べている。全部食べると、お皿の底に動物の絵が出てくるなど、子どもたちが楽しみながら食事ができるよう工夫している。</p> <p>○保護者が相談しやすいよう、保育士から先に声を掛けるなど配慮している。保護者からの相談は随時受け付けている。保護者からは担任に相談することが多いが、主任や園長も相談できる体制を整えている。保護者の相談は「園ではよく食べるのに、家ではあまり食べない」「夜泣きがある」「歩行が遅い」など、子育てに関する心配事が多い。園内の部屋でゆっくり話を聞き、適切に答えるようにしている。</p>
--

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して間もなく5年になります。  
今回初めての第三者評価受審となりました。  
この第三者評価を受審するにあたり、今までの園の保育をはじめとして、全体をバランスよく振り返ることができました。  
その中で当園の良い点や課題などが明確になりました。  
また評価を引き受けていただいた先生方には、理念や思いなどをとてもよく理解していただき、かつ当園に寄り添った評価をいただくことができたと思っています。  
今後も園長を中心として職員間の連携を大切に安心安全で優しい保育に努めていきたいと思えます。  
また利用者アンケートにご協力いただきました保護者の皆様、評価ご指導いただきました神奈川県介護福祉士会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり